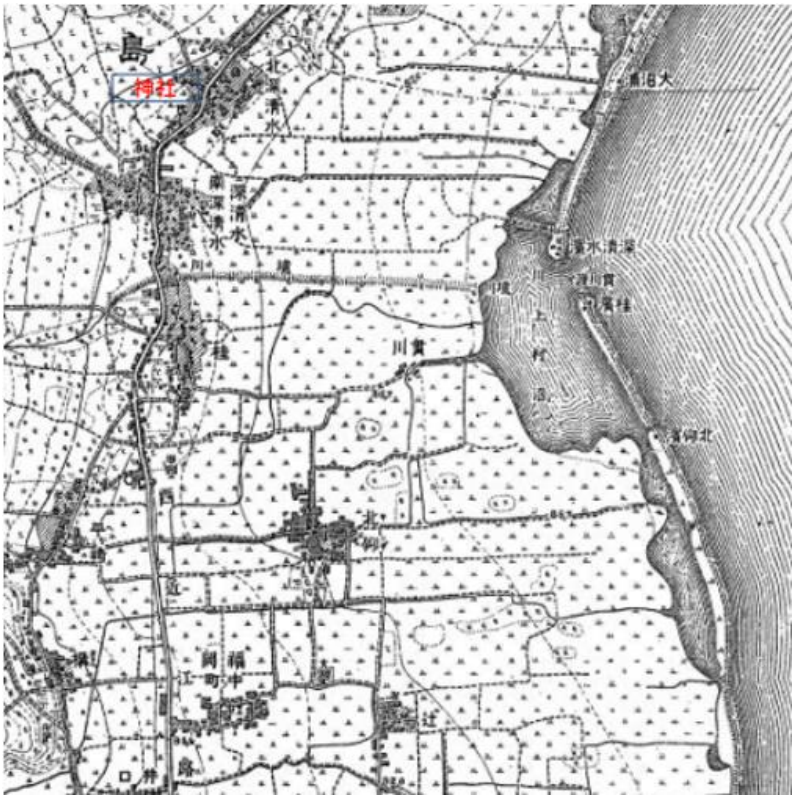
既　存　内　湖　調　査　票

番号	２２	内湖名	浜分沼（はまぶんぬま）
所在地（旧市町名）	高島市今津町浜分（高島郡今津町浜分）		
調 査 年 月 日	夏　平成２８年(2016 年) 9 月２６日　　秋　平成２８年(2016 年) 12 月 5 日 冬　平成２９年(2017 年) 3 月２８日		
調　査　担　当	Ｅ班		
概　要	明治期の地図を見ると、浜分沼と貫川内湖は水路で繋がって、1 つの内湖（川上村沼)であり、琵琶湖水位の低下時は浜分沼と貫川内湖(ぬけがわないこ)に分かれたりしていたと考えられる。そして、第 2 次大戦末期から始められた貫川内湖の干拓事業の影響等で、貫川内湖同様に消失に近い状態になった可能性がある。その後、昭和 60 年頃の内湖再生事業で汚泥除去がされ、浜分沼も復活した。面積は 5.4ha（平成 12 年)」とあるが、明治期、この辺りは南北に距離にして 1.6 キロほど続く内湖地帯であり、浜分沼の様子も少し異なっていたと考えられる。		
面　積	5.4ha（平成 12 年）		
主な流入河川	沼の山手側中央付近に 1 つ流入河川がある（名称不明。橋「あやめ橋」が架かっていた。)。また、南側に水路があったが、流入はしていなかった。		
現況と周辺の環境	内湖の入り口は、サイクルロードや歩行者優先道路の標識があり、木道もかけられ、住民や釣り人等の憩いの場となっている。管理は十分とは言えなく、シーズンオフ時の調査では一面にヒシなどの浮遊植物が覆い、茶色になり、内湖へは雑草で近づけなかった。また、周辺の環境は、干拓し宅地開発が行われたものの、開発中断部分もかなりあり、雑草が伸び、放置されていた。		
用　途	自然保護のため県が買収し、昭和 60 年の汚泥除去で内湖として復活したもので、水を浄化するとともに、鳥や魚のすみかとなり、また、優れた景観として人々の心を和ませてくれることを期待して整備されている		
現状の問題点	夏場以外は観光客も少なく、維持管理の財源が大変と思われる。		
生物の生息状況	水鳥、魚類		
水域としての評価	水は汚れており、わずかに異臭がする。		
写真撮影地点	（地図に記載）		
名 前 の 由 来	浜分沼は、高島郡誌（1927 年)では七反田沼と三人河沼となっている。(琵琶湖一周その 2 より）		
そ　の　他	隣接する貫川内湖と同様に湖周道路が増設され、周辺は田畑や住宅地（別荘もある)として利用されているが、貫川内湖側に開発中断地域があり若干荒れていた。オフシーズンは、数件ある貸し船店などは閑散として。沼の湖面はヒシなどの浮遊植物で覆われた部分もあり、管理が十分でない。 参考文献:内湖検討委員会資料、高島郡誌、琵琶湖一月その 2、今津沼説明看板		
現在の写真および過去との対比（写真別添）			



貫川内湖と浜分沼の地図比較(明治期と現在)

明治期の地図では、浜分沼と貫川内湖は１つの内湖（川上村沼 ）であり、その後の琵琶湖水位の低下で、浜分沼と貫川内湖に分かれたりした(明治期の水位は約１m高い)。

左写真：浜分沼中の木道(沼面はヨシに覆われ、水深は浅そうだが、面積は広い)　2017.3.28

右写真：浜分沼　南側

浜分沼の中央付近に流入している河川(河川名は不明、大きな流入はこれ１本)と橋(あやめばし)

橋付近の立札に浜分沼園地の立て杭

写真左：右が湖周道路、左が浜分沼
写真右：水鳥がいた 2016.12.5

浜分沼と貫川内湖は明治期つながっていたが、その後埋め立てされた。近年、浜分沼に近いところで宅地造成された数件建てられたが、中断し荒れている 2016.12.5